

2021年度第1四半期 決算説明資料



2021年8月4日

M MITSUI E&S

三井E&Sホールディングス

2021年度 第1四半期 決算概要

◆ 受注高	963 億円	(前年同期比 ↓)
◆ 売上高	1,859 億円	(前年同期比 ↑)
◆ 経常利益	67 億円	(前年同期比 ↑)

2021年度 見通し

◆ 受注高	4,500~6,500 億円	(前回発表比 →)
◆ 売上高	6,700 億円	(前回発表比 →)
◆ 経常利益	60 億円	(前回発表比 →)

トピックス

- ◆ ゼロエミッションへの取り組み
 - ✓コンテナ用ヤードクレーンのゼロエミッション化に向けたプロジェクトを始動
 - ✓アンモニアの舶用燃料利用に関する統合型プロジェクトに参画

(単位：億円)

	20年度1Q	21年度1Q	増減
受注高	2,528	963	▲1,565
売上高	1,608	1,859	+251
営業利益	▲151	28	+179
(営業利益率)	(▲9.4%)	(1.5%)	—
経常利益	▲139	67	+206
(経常利益率)	(▲8.6%)	(3.6%)	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲85	57	+142

<期中平均為替レート>

USD	108.64円	110.70円
-----	---------	---------

2021年度第1四半期 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	受注高			売上高		
	20年度1Q	21年度1Q	増減	20年度1Q	21年度1Q	増減
船舶	151	48	▲103	215	125	▲90
海洋 開発	1,592	458	▲1,133	806	1,199	+393
機械	451	372	▲79	323	382	+59
エンジニア リング	78	2	▲76	81	27	▲54
その他	257	83	▲174	183	127	▲56
合計	2,528	963	▲1,565	1,608	1,859	+251

2021年度第1四半期 セグメント別決算概要

(単位：億円)

	営業利益			経常利益		
	20年度1Q	21年度1Q	増減	20年度1Q	21年度1Q	増減
船舶	▲3	0	+3	▲3	8	+11
海洋 開発	▲121	16	+137	▲108	44	+152
機械	5	6	+1	6	7	+1
エンジニア リング	▲35	▲2	+33	▲32	▲2	+30
その他	3	8	+5	▲3	10	+13
合計	▲151	28	+179	▲139	67	+206

■ 大型石炭火力発電所土木建築工事の状況

プロジェクト	地域	工事進捗率	
		20年度4Q	21年度1Q
1	インドネシア	約79.7%	約81.8%
	引当金残高 :	677億円	646億円
2	インドネシア	約99.7%	約99.8%

- 6月に入り、インドネシアにおける新型コロナウイルス感染症の拡大が再び加速
 - 工事現場では、感染対策を強化し工事を継続
- プロジェクト1の工事損益は、19年度2Qに追加損失を計上した際の引当金の範囲内で推移

(単位：億円)

	期初見通し (2021/5/11)	今回見通し (2021/8/4)	増減
受注高	4,500～ 6,500	4,500～ 6,500	0
売上高	6,700	6,700	0
営業利益	50	50	0
経常利益	60	60	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	30	30	0
フリーCF	▲1,230	▲1,230	0
有利子負債	2,300	2,300	0

- ※ 前回発表から変更はございません
- ※ 前提為替レート US\$ = 110円
- ※ US\$ 1円の円高が営業利益に与える影響⇒約1億円の悪化

(単位：億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益
船舶	300	400	▲30	▲20
海洋 開発	2,000～ 4,000	4,000	0	60
機械	1,800	1,600	90	90
エンジニアリング	0	200	▲20	▲40
その他	400	500	10	▲30
合計	4,500～ 6,500	6,700	50	60

※ 前回発表から変更はございません

■ コンテナ用ヤードクレーンのゼロエミッション化に向けたプロジェクトを始動

- 2022年度中に水素燃料電池電源ユニットを搭載したゼロエミッション型トランステナ®の実機モデルでの工場内試験を完了予定
- コンテナ用荷役機器の水素燃料導入に向けて商船三井と共同検討を開始
先行して、神戸国際コンテナターミナル向けニアゼロエミッション型トランステナ® 2基を受注し、2022年5月末の引き渡しを予定



*トランステナ®は当社が技術提携するパセコ®グループのコンテナ用ヤードクレーンの登録商標です

■ アンモニアの船用燃料利用に関する統合型プロジェクトに参画

- MAN Energy Solutionsと協力してアンモニア燃焼機関の開発を推進。2024年の商用初号機完成を目指す
- ガス供給システムの工場での製造・試運転を含めたライフサイクル全体の安全性や信頼性を検証
- アンモニアの船用燃料利用を目指して国内外23社により設立された協議会に参画



参考) 2021年度第1四半期 損益計算書の概要

(単位：億円)

	20年度1Q	21年度1Q	増減	
売上高	1,608	1,859	+251	
売上総利益	▲43	130	+173	三井海洋開発について、前期は建造工事のコスト増加があったが、今期は大型建造工事の収益認識があり増加
販売費及び一般管理費	108	103	▲5	
営業利益	▲151	28	+179	
営業外収益	27	52	+24	
営業外費用	15	13	▲3	
経常利益	▲139	67	+206	
特別利益	24	50	+26	三井E&S 環境エンジニアリング株式の売却などにより増加
特別損失	32	2	▲29	
税金等調整前 四半期純利益	▲147	114	+261	
法人税等	▲8	44	+52	
非支配株主に帰属する 四半期淳利益	▲54	13	+67	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲85	57	+142	

参考) 2021年度第1四半期 貸借対照表の概要

(単位：億円)

	20年度	21年度1Q	増減	
資産合計	7,664	7,297	▲368	
(現金及び預金)	1,376	1,270	▲107	
(受取手形、売掛金及び契約資産)	2,340	2,095	▲245	主に工事進捗による回収
(有形・無形固定資産)	1,585	1,570	▲15	
負債合計	6,705	6,219	▲486	
(支払手形及び買掛金)	2,152	1,855	▲297	
(前受金、契約負債)	943	1,079	+135	
(受注工事損失引当金)	770	721	▲49	
(有利子負債)	1,645	1,385	▲260	
純資産合計	959	1,078	+119	
(自己資本)	675	805	+130	
自己資本比率	8.8%	11.0%	-	
ネットD/ELシオ	0.4倍	0.1倍	-	

新造船内訳 (三井E&S造船)

	受注	引渡	受注残
一般商船	0	0	1
艦船・官公庁船	0	0	7
合計	0	0	8

船用ディーゼル機関 (三井E&Sマシナリー)

	2020年度1Q		2021年度1Q		2021年度予想	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注	64	118	28	108	—	—
売上	35	75	35	83	—	—
受注残	126	288	61	146	—	—
生産実績	38	92	30	70	125	300



MITSUMI E&S

社会に人に信頼されるものづくり企業であり続けます

To continue working as a company trusted by society and individual through products and services we offer

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。